

令和 5 年 5 月 1 日

園 名 鈴鹿市立飯野幼稚園

園 長 名 中野 あけみ

令和5年度 園内研修実施計画書

1 研修主題

遊びこむ幼児を育むための環境の工夫と教師の援助
～つながり・学び・育ちあう～

2 主題設定の理由

子どもたちを取り巻く環境は、沢山の物や情報にあふれ利便性が高くなった反面、人や地域社会とのつながりが希薄化している。また、安心して遊べる場所の減少や少子化も相まって、子どもたちが心揺さぶられる直接体験をする機会や場が失われている。互いに学びあう場や人と一緒にする体験が少なくなっているため、体力や人とのコミュニケーション能力の低下が感じられる。本園の園児も校区を越えて通園している園児が多く、降園後の園庭開放を利用して人や物とのかかわりを広げている実態がある。

以前から「遊びは学び」と言われるように「環境を通して培われる幼児期の学び」の多様性が、子どもたちにとっての活きた知識や技能等の習得に大きく影響すると思われる。それが、小学校以降の「教科を通した学び」につながることで改めて見直されたのではないだろうか。幼児教育の指導過程で大切にしてきた、子どもの主体性を大事にする視点をより意識化して取り組んでいくことが重要である。

遊びや生活の中で子どもが身近な環境に興味・関心をもち、「もっと、やってみたい」「試してみたい」「続きをやりたい」という自らの思いや考えを実現するために、粘り強く取り組むことのできる環境の工夫をしていきたい。そして、体験を通して感じたこと・気づいたこと等を言葉や行動で周りの人と伝え合うことにより、互いの考えが広がり、深まるようなやりとりができる関係性を育てていきたい。そのために、一人一人の育ちに合った環境の工夫、カリキュラムや教育内容の見直し等、全職員一人一人が確かな目をもって取り組めるように主題を設定した。

3 研究内容及び方法

○幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、意図的・計画的に環境を構成する。

- ・日々の姿や事例を通して全職員で話し合い、多面的な幼児理解に努める。
- ・幼児の主体的な活動が確保されるよう、教材を工夫し、人的・物的・空間的環境を構成する。
- ・実践検討を通して幼児一人一人の育ちや教材の有効性、教師の援助のあり方等を検証・考察する。

○家庭と園とが連携を図り、幼児の相互理解を深め、共に協力し合う関係性を構築する。

- ・通信、連絡ノート等での発信、個別懇談等での面談を通して信頼関係を築く。

○中学校区で保幼小中の連携を密にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、それぞれの年齢や時期にふさわしい指導のあり方を検証・考察する。

○特別な配慮を必要とする幼児に対しては、専門機関と連携してよりよい支援の手立てや方法を考える。

<p>一 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの実態の把握 ○教育課程の検討と作成 ○研修計画の検討と作成 ○年間指導計画の検討と作成 ○指導計画の検討 ○週案の検討と作成 ○特別支援会議 ○創徳中学校区人権教育連絡協議会 ○一学期実践記録検討 ○一学期の反省とまとめ
<p>二 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の検討 ○週案の検討と作成 ○ゆき組(4歳児)公開保育と事後研修 (指導主事要請) ○ほし組(5歳児)公開保育と事後研修 (指導主事要請) ○小学校での体験研修 ○ネットDE研修 ○特別支援会議 ○創徳中学校区人権教育連絡協議会 ○創徳中学校区人権教育授業実践研究参加 ○二学期実践記録検討 ○二学期の反省とまとめ ○教育課程の見直し
<p>三 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の検討 ○週案の検討と作成 ○特別支援会議 ○創徳中学校区人権教育連絡協議会 ○三学期実践記録検討 ○教育課程の見直し ○一年間のまとめと課題